

1. 研究目的

電子機器等の普及や娯楽の変化により、昨今の子供は自らで周りの風景や生き物を気にすることが少なくなっていると感じる。自分の子供の時の経験から、幼い時の記憶を記録として残すことは、その瞬間にも年を経た後も重要なことだと思う。そのような思いから、子供が外に出てしっかり撮影できるカメラを考える。

2. 調査と分析

商品調査として現在メーカーから「子供用カメラ」として販売されている商品と、一般的なデジタルカメラ、トイカメラを調査した。結果として3つのうちで子供専用として作られているカメラは少なかった。

ユーザー調査は、子供にカメラを持たせたいと思っている親に対して現状の商品で感じることをアンケートで答えて頂いたところ、以下のような回答を得られた。

- ・それなりにしっかりしたものを持たせたいが、操作が難しいものは使ってもらいにくい
 - ・子供用カメラとして売り出されているものは、チープなものが多い
 - ・あまり高性能なものを渡しても壊されてしまう
- 以上の調査を踏まえ、子供用カメラに必要な要素を考え以下のようにコンセプトを決定した。

3. コンセプトの立案

- 子供が気軽に撮影ができる
 - ・持ちやすく操作しやすい
 - ・少しぶつけても壊れない工夫

4. デザイン展開

まず、コンセプトに従い子供の手で持ちやすいような有機的な形で且つ破損等を防ぐ事に重点を置いてデザイン展開を行った。

また、初期の段階では持ち方の考察として両手持ち一つ、ガングリップとを含めた片手持ち二つの計三つを考えていたが、一度の検証を経て片手持ちをガングリップ一つに絞り各二つのモデルを作成する方針にした。やむを得ず無くした要素の一つとして、液晶ディスプレイを搭載しないというアイデアがあった。これは独自で片手持ちのモ

デルに試験的に取り入れた試みで、破損の危険性が高い液晶ディスプレイを無くし、どのように写真が撮影できたかその場では分からず、家に帰り確認する楽しみを考えたアイデアであった。しかし、検証等で、何を撮ったか分からないのはカメラとして破綻してはいないか、というような意見が多く挙げられたため、小さいサイズでも液晶ディスプレイを付け、その上でより操作性、保持力に優れる外観デザインを目指し最終デザインにまとめた。

5. 完成図



6. 結論

- ・良かった点
申し訳程度の持ちやすさしかないと感じる既存製品と比べ、時間をかけた保持力の部分は高いレベルで完成できた。特に両手用のデザインに関しては、大まかな形状は既存の製品と似ているが、独自のグリップを考えることでより保持力を高められるようになった。たまた、破損等を考慮したガードは外観デザインを損なわない機能的なものが考案できたと思う。
- ・反省点
ガングリップタイプの形状にはまだ一考の余地があると感じる。液晶ディスプレイを搭載し、且つ分かりやすい操作形態を実現するためのデザインの検証をもっと時間をかけて行うことが必要だとも感じる。また、今回の提案は二案とも右利きの人を対象にしているが、左利きの人も違和感なく扱えるものも考案するべきだったと思う。